

書塾の仲間たち

第 227 回

どうじ 童子書道教室（埼玉県越谷市）



●書塾からひとこと●

当教室は、令和二年に越谷市の商業施設イオンレイクタウンの近隣に誕生しました。小学生が主体で、保護者数名を含め十数名からなる、ほぼ全員が初心者という教室です。

教室は月三回、金曜日の夜に開く定期教室と、月一回、土曜日の午前中に行う体験教室があります。定期教室は月刊「書写書道」の毛筆・硬筆の規定課題、展覧会課題を主に指導し、体験教室は半切・半紙・色紙・短冊・額などを無料贈呈し、自由に書いてもらうことで毛筆に触れてもらっています。日々の活動は、和気藹々とした雰囲気で行っています。

教室の特徴は、一般的な書道教室とは違い、二時間の中の冒頭の約三十分間は、江戸時代の寺子屋のような感覚を醸し出しているところです。

四書五経や古今の先哲が残した教訓となる人生訓・語録、また、日本人の精神を作ったといわれる千年の教科書・教育学者の齋藤孝先生が子どもと声に出して読みたいと推奨する「実語教」や、江戸・寺子屋の教科書といわれる「童子教」（当教室の名前の由来）などの一節を生徒たちが朗読し、その後、その意味や内容等を教える指導もしています。例えば、次のような語録を月に六句ずつ指導しています。

▼子曰わく「己の欲せざる所は人に施すこと勿かれ」と（論語）

▼兄弟常に合わず慈悲を兄弟とす、財物永く存せず才智を財物とす（実語教）

早い子どもは三、四回目には暗記し、その意味を理解して仲間に説明ができるようになります。また、語録を毛筆書きする子どももたくさんいます。

今後は、書道技能の向上はもとより、語録の朗読、意図することの理解を通じて、人としての在り方、生き方、人生の支柱となってもらえることを願い、高齢に鞭打ち師弟同行で精進していきたいと思っています。

童子書道教室 永松 教孝（源徳庵）

※書塾に連絡したい方は事務局へお問い合わせください。



きれいな字を書きたい

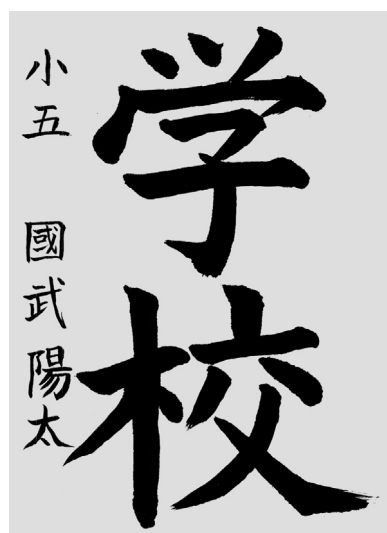
東京都八王子市立第五小学校二年 後藤 彩花

わたしは、小学一年生の中から、しゅう字をならいはじめました。

小学校に入学したころは、とても字がきたなく、書きじゅんもばらばらでした。しゅう字をならい始めて、少しずつ字の形や書きかたを学ぶようになり、きれいな字が書けるようになってきました。それからは、小学校の先生たちにも、ていねいに字が書けているとほめられることがふえました。とてもうれしかったです。

きゅうが上がっていくと、自分がんばったせいかが目に見えて分かるので、もっともっと、上に上がっていけるようにがんばっていききたいです。そして、もっときれいな字を書けるようになって、友だちいろいろな人に、手紙を書いてとどけたいです。今はしゅう字教室に同じ学校の友だちがたくさん通っていて、みんな楽しくしゅう字をならっています。いつかもっとたくさんの人に、しゅう字の楽しさをつたえていけたらいいなと思います。そのために、わたしもさらにど力して、きれいな字を書けるようにします。

私と書写書道 第227回



僕と書道

千葉県我孫子市立根戸小学校五年 國武 陽太

僕が書道と出会ったのは小学一年生の時、父が書道教室の体験に連れて行ってくれたことがきっかけでした。先生方は、たくさんほめてくださり、花丸をつけてくれて、とてもうれしかったことを覚えています。教室に通い始めたころは筆に慣れず、バランスの良い字が書けなかったけれど、今ではだいぶ慣れ、自分でも「良い字だなあ。」と思える作品が書けるようになってきました。

僕が字を書く時に目標にしていることは、一画、一画でいねいに書くことです。しかし、時々あまり時間をかけずに書いてしまい、力が入っていないことがあるため、姿勢を正し、力を入れて、ていねいな字を書く練習をしたいと思っています。

書道教室では、みんな集中して取り組んでいて、自分も集中して字が書けています。そのため、自分の作品が写真版に選ばれたり、学校でも賞を取ることが増えてきました。僕はなにより、書道が楽しいです。僕に書道の楽しさを教えてくださる先生方、集中した環境を作ってくれる書道教室のみんなに感謝し、これからも書道を続けて行きたいと思っています。